

企業名： 王子ホールディングス

レポート名： 王子グループ統合報告書 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

統合報告書を通じて、王子ホールディングス（以下王子）が将来、どのような企業を目指しているのかがよく感じられた。まず、報告書の 1,2 ページに同社の未来に向けた経営理念や存在意義が示されており、9,10 ページには同社が掲げる「環境ビジョン 2050」（ネット・ゼロ・カーボン達成の目標）達成に向けた、全体的な計画が図としてわかりやすく描かれている。13～24 ページにはおよそ 12 ページ分に渡って、「環境ビジョン 2050」に向けた長期計画とそのマイルストーンとなる「環境行動目標 2030」に向けた中期計画が具体的に記されている。長期計画については、長期目標達成に向けた 4 つの理念やその理念を支える基盤となる企業目標が記されている。中期計画については、より具体性を増している。事業分野ごとにどのような取り組みを今後行っていくのかといった行動面の目標だけにとどまらず、どれだけの利益を挙げ、会社として運用していくのかといった資金繰りに関しても具体的に図を用いて記されており、同社の将来に向けたビジョンが非常にわかりやすくなっている。さらに、27～30 ページには「環境行動目標 2030」に向けた環境問題への対応策も明確に記されており、同社の目標への高い熱意が感じられる。また、各事業で色分けがされているため、違いが非常にわかりやすく読み手にやさしいつくりにもなっている。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

まず 99 ページ以降の財務レビュー等から同社が、製紙業において国内をリードする企業の一つであることがわかった。また報告書の 2,5,6,9,10 ページから同社が何を生産し、世の中にどういった価値を提供しているのかといった全体像がわかる。さらに同社の起源となる抄紙会社が設立された 1873 年から今まで、どのような経緯でどのような製品、価値を提供し続けてきたのかが図や年表を用いてわかりやすく伝えられている。そのうえで、39～58 ページで生活産業資材、機能材、資源環境ビジネス、印刷情報メディアの 4 つの事業ごとに、どのような試みを行い、また今後どう発展していくかといった展望が見えた。特に、41,42 ページから同社が生活産業資材の生産に大きな強みを持っていることも分かった。これらのことから、同社がどういったものを世の中に提供しているのか、また今後提供しようとしているのかといったことがよくわかり、競争優位性は理解しやすいものになっているといえる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

まず森林などの自然資源を扱う企業として、環境問題への取り組みが自身の製品の強みを維持するなど、競争優位性を持続する上でのポイントとして挙げられるが、同社はその点について、1. の項目で述べたように中長期的な目標を立てられており、その実現に向けた内容も環境、資金、企業としての行動など様々な角度から述べられており、自然資源を扱う企業としての環境保護への意識の高さがうかがえる。環境保護や3Rの活動には熱心であり、87～92ページには自然資源の保護や再利用の行っている同社の実績などが載せられており、ここにも資源を扱う企業として、資源の持続可能性を追求している姿勢がうかがえる。また自然災害などのリスクについては、その対策を王子グループ全体として組織化したうえでしっかりと案が練られており、グループ全体として持続可能な優位性の確保に向けた行動を行えていることが理解できる。森林などを扱う都合上、新規参入がしづらい業界ではあると思うが、現在の4つの事業分野における課題点、反省点があまり記されておらず、現在の市場状況などに合わせた分析などが適切に行われているのかどうかは読み取りづらくなっていた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

93ページに王子グループ全体として人権尊重の姿勢が、さらに94ページからは同社の社員教育方針や労働の安全性などについて記されていて、多様な研修、働き方改革への実施や社員の健康や育児支援などの制度が整えられていることがわかる。しかし、具体的なキャリアプランや実際の社員の声などが載せられていないため、非常に抽象性が高い内容となっている。そのため同社では安定したキャリアプランを描けるようにも見えるが、自身の人的資本の価値向上を実際に行えるのかを具体的に想起することは難しく感じる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

まず色分けが明確にされており、非常に見やすい報告書になっていた。また、自然資源を扱う企業として、その材料となる環境資材の保護、再利用にむけた行動目標、そしてこれまでの実績がわかりやすく乗っており、同社の環境保護への高い意識が感じられた。また環境保護とともに歩む同社の成長戦略についても、適宜図や表などを用いながら説明されており非常にわかりやすい内容になっていた。一方、現場の一社員の声がないなど具体性に欠ける内容となっており、人材育成についてより力を入れた報告書を作成するのも一つではないかと感じた。